

有識者が考える西宮中央運動公園再整備事業のあり方

本事業をより魅力的な事業とするために、各分野の有識者のみなさまからいただいたご意見を紹介します。

五十音順（敬称略）



上林 功
追手門学院大学社会学部社会学科スポーツ文化コース准教授 / スポーツ科学 / 建築計画 / 都市計画

日常からスポーツへの繋がりを

スポーツ庁が進めている「Sport in Life」というプロジェクトがあります。いわゆる生活の中で体を動かすといったようなことも広義のスポーツとして捉えられないか、という話です。これはこれでとても面白い取り組みなのですが、私自身は課題も感じています。生活の中で体を動かすことと競技スポーツが切り離されているように感じています。そこを読み解く方策のうちの一つに公園があると思います。みんなで集まって、みんなで使えて、生活の中でスポーツがある。公園で遊んでいる子供達が運動施設でスポーツをしている学生アスリートのお兄さんやお姉さん達を見て、興味を持ち、スポーツをする子供達が増えていくという様なストーリー作りは必要だと思います。その繋がりが上手く出来れば、10年後、20年後、それこそ30年後、西宮のスポーツがとても強くなっているかもしれません。紐解けば、実は子供のころから生活からスポーツへの繋がりのストーリーを市として大事にしてきたんですよ、というような話が出来るととても素敵だと思います。



大坪 明
武庫川女子大学教育研究社会福祉推進室室長 / 建築計画 / 都市計画 / 建築学 / 建築学 / 建築学 / 建築学 / 建築学 / 建築学

地域スポーツの要としての役割

中央運動公園の一施設で完結するのではなく、西宮市内のスポーツ施設や市の市民サービスとどう連携して、広がりを持たせられるのが課題の一つです。一方で、小中学校では徐々にチームをつくるスポーツのクラブ活動がなくなってきています。先生方に負担をかけないという流れの中で、指導者がいなくなっているのです。その問題は、地域スポーツにおいても、指導者の高齢化に伴って起こっています。良い指導者がいて、子供が集まり、大人も集まってくる状態というのが望ましい姿ですので、西宮市全体で取り組むべき課題だと思います。子供たちのスポーツを指導できる人を育てるのも中央運動公園の役割だと思います。



北原 鉄也
大阪市立大学名誉教授 / 関西大学非常勤講師 / 教授 / 教授 / 教授 / 教授 / 教授 / 教授

市民が参画できる仕組み

事業の計画、建設、引き渡し後の運営の各フェーズにおいて、利用者や地域の住民が何らかの形で参画できる仕組みを組み込むことがとても大切です。公園は、人々がそこで様々な活動をしたり、おしゃべりも含めて交流をするための公共空間ですので。また、スポーツのボリュームが大きいので、その関係者の参画も当然必要です。そして継続して参画できる仕組みであるべきです。地域コミュニティーの土台をつくるという視点を持って事業を進めていくことが大事であり、この点に関して一番期待しています。



永田 隆子
武庫川女子大学オープンカレッジ所長 / 建築 / 建築 / 建築 / 建築 / 建築 / 建築 / 建築 / 建築

時代の変化にこたえる柔軟性

スポーツが様変わりしていこうという世の中で、そのあり方を考えるのであれば、一つはオンライン上でスポーツを習ったり、観戦して選手に対して投げ銭が出来るような双方向の状況をつくり出すことです。あるいは、パーソナライズ化して能力に合わせた運動指導をしてもらえたり出来る状況をつくり出すことだと思います。西宮市自身も、スポーツ推進計画に載っているように、課題はあります。スポーツをすることの減少をどうするのか、健康増進、楽しみのためのスポーツの政策をどうするのか、だれかと一緒にしないといけないのではなくて、自由な時間に気軽に行えるスポーツプログラムの提供と充実を図っていく等の課題があると思います。その課題を一つずつ消していけないといけません。5年スパンでの計画になりますが、その中でも良いものはどんどん展開していき、悪いものは外していく必要があります。最終的にはスポーツを通じた地域の活性化、共生社会の実現があらうかと思っています。



難波 隆幸
公認会計士・税理士

持続可能な運動公園

人が集まる、活気あふれる中央運動公園を、長期間維持するためには、財源の確保が大きな課題です。はじめは、立派な施設でも、メンテナンスができて廃れていった公共施設は多くあります。健康増進や市民交流の場、憩いの場という高尚な理念や目標は、財源という基盤があって初めて成り立つものだと思います。民間施設では、「リニューアル・イベント開催」→「人が集まる」→「ビジネス機会創出」→「収益化による財源確保」→「次のリニューアル」という好循環で回っています。今回の中央運動公園の運営には、民間事業者が参画します。民間事業者ならではのアイデアを取り込み官民が一体となって、財源面からも活気あふれる中央運動公園を長く保つ仕組みを作り出していくことが必要と思います。



平田 富士男
兵庫県立大学大学院経営学専攻学長 / 建築 / 建築 / 建築 / 建築 / 建築 / 建築 / 建築 / 建築

パークライフin西宮の発信拠点として

立派なスポーツ施設ができて、人々がそこでスポーツをしなければ人々の健康は実現されません。逆にスポーツ施設以外の広場のような空間でも、みんながいっしょに楽しく会話しながら体を動かせば、体の健康だけでなく、心の健康や人どうしのつながりもできてきます。少子高齢化の進展などさまざまな将来課題が私たちを取り巻くなか、スポーツをはじめとした公園のなかでの活動「パークライフ」は、それらの課題に対応していくさまざまな可能性を秘めています。この公園は、決して大きな公園ではありませんが、市街地の真ん中にあり、多くの人々が気軽に西宮ならではのパークライフを楽しめる潜在力を持っています。その潜在力を最大に引き出すのは公園と市民のコラボレーション。そんなコラボレーションで、気軽にパークライフを満喫できる公園が西宮にはある！そんな西宮の暮らしやすさを発信していく公園になってほしいと期待しています。

